

別中ありがとう

2020年5月8日(金)
三木市立別所中学校発行

未来への希望に繋げる！

緊急事態宣言が延長され、学校も5月31日(日)まで臨時休校となります。人との接触を減らす取組等で、家で過ごすことが多くなり、ストレスや不安も増えてきていると思います。

アンパンマンの原作者でもある やなせ たかし さんは、「明日をひらく言葉」(PHP研究所 編)のなかで、次のようなことを述べておられます。

兵隊にとられて中国の山野で銃をかついでいたときは、もう二度と祖国の土を踏むことはないときらめていた。焦土となった敗戦の祖国へ引き上げてきたときも、希望は何ひとつなかった。「今日一日生きられたから、明日もなんとかなる」と辛抱して生きていくと、やがて道は拓けてくる。

やなせさん作詞の「てのひらを太陽に」の歌の一節は、「生きているから悲しいんだ」である。「なぜ悲しいんですか」とよく聞かれる。まずは悲しみが先にやってくる。悲しみがなければ喜びはない。

お腹をすかせた時の一杯のラーメンがとてもおいしければ、それは幸福である。健康でスタスタ歩いているときには気がつかないのに、病気になってみると、当たり前に行けることが、どんなに幸福だったかと気づく。幸福は、すぐそばにいて、さりげなく、ひっそりと隠れている。

誰にも明日のことはわからない。明日のことどころか、一瞬先のことさえわからない。「一寸先は闇」でも「その一寸先には光」がある。アンパンマンがブレイクした時、やなせさんは69歳だった。

パンドラの箱を開けると、病気や飢えやら…いろんなよくないものが飛び出してくる。しかし、最後に希望だけが残る。絶望したとしても、必ず、またいいことがある。絶望の隣には、希望がそっと座っている。

私たちは、当たり前のこと、小さなことを積み上げながら、懸命に生きていく、このことが未来への希望に繋がっていきます。

学校長 林 信男

中学校の花壇や木々の様子です。

